

学院

キャンパスだより

第7号



ドイツ大使館公使「シュテファン・ガロン氏」来学記念講演

- 2 ▶ 野辺地西高校創立35周年記念
- 4 ▶ 全国で反響!!篠崎良勝講師のケア・ハラスメント調査
▶ 総合研究所 地域貢献へ機能向上
- 5 ▶ ドイツ大使館公使「シュテファン・ガロン氏」来学記念講演
▶ 第1回図書館公開講座の開催
- 6 ▶ 経営ビジネスセミナー開催
▶ ハイライン留学説明会およびTOEFL模擬試験実施
▶ スクールバス2台納車
- 7 ▶ 平成19年度父母の会地区懇談会開催される
▶ 八戸大学ー
▶ 人間健康学部生就職活動はじまる! ー八戸大学ー
- 8 ▶ 今年度「海外研修」を終えて ー八戸大学ー
▶ 人間健康学部 八戸市健康まつりに参加 ー八戸大学ー
- 9 ▶ 第12回北海道・東北大学王座決定戦3年ぶり2度目の優勝
▶ 八戸大学ー
▶ NHK杯第58回青森県サッカー選手権大会(天皇杯予選)
4年連続7回目の優勝 ー八戸大学ー
▶ 硬式野球部小学生野球教室で指導 ー八戸大学ー
- 10 ▶ 映画「伊藤の話」八戸大学で公開ロケ ー八戸大学ー
▶ OB & OG 訪問 ー八戸大学ー
- 11 ▶ ボランティアディ開催 ー八戸短期大学ー
- 11 ▶ ショッピングセンターラピアで現場見学 ー八戸短期大学ー
▶ 教育実習体験記 ー八戸短期大学ー
- 12 ▶ 三団体親睦会開催される ー専攻科ー
▶ 学生会便り ー専攻科ー
▶ 研修旅行を終えて ー専攻科ー
▶ 現場実習を終えて ー専攻科ー
- 14 ▶ P T A が生徒と一緒に挨拶運動 ー光星学院高校ー
▶ JUMP チームが自転車の防犯診断 ー光星学院高校ー
▶ 八戸花火大会会場設営に協力 ー光星学院高校ー
- 15 ▶ クローズアップ ー光星学院高校ー
▶ 母校での教育実習を終えて ー光星学院高校ー
- 16 ▶ 大きな大会で実力発揮 ー光星学院高校ー
▶ 連載 変わりゆく校舎③ ー光星学院高校ー
- 17 ▶ 和泉流狂言でござる ー野辺地西高校ー
▶ 全校生徒奉仕活動実施 ー野辺地西高校ー
- 18 ▶ あきんど祭りへいらっしやい! ー野辺地西高校ー
▶ 福祉大会にて感謝状受賞 ー野辺地西高校ー
- 19 ▶ こどもの小さな幸福ーモンテッソーリ教育ー
▶ ー聖アンナ幼稚園ー
▶ こどものためのクラシックコンサート ー聖アンナ幼稚園ー
- 20 ▶ 学園祭in美保野

10月12日(金)、体育館で挙行された記念式典には、理事長をはじめご来賓・旧職員・保護者の方々多数のご参列をいただき、生徒教職員計500名参加のもと、式が執り行われた。

校長式辞、理事長挨拶に続いて、これまで本校の教育活動にご尽力いただいた歴代校長、PTA会長、後援会会長、同窓会会長、35周年記念事業協賛会会長、学校医に感謝状を贈呈、野辺地町町長の祝辞ののち、生徒を代表して生徒会長鈴木陽介君が「新たなページを記すため、勉強にスポーツに一生懸命励みます。」と誓いの言葉を述べ、全員で校歌を斉唱して式は終了した。



北見学院大学 附属 地西 高 校

ご来賓の中には各界で活躍されている卒業生の顔も見られ、在校生と共に大きな声で校歌を歌う姿は堂々としていた。感無量のものがあったにちがいない。

式典に続き、まかど温泉富士谷ホテルにおいて記念祝賀会が行われた。ご来賓はじめ教職員計120名が参加。本校祇園囃子保存クラブにより、「野辺地祇園祭り」で演奏される祇園囃子が披露された。お囃子の一部には校歌が取り入れられており、その節が演奏されると会場にはうなずきながら耳を傾ける姿も見られた。野辺地町教育委員会教育長高田安雄様のご発声による祝杯。あちこちで杯を傾け合い、35年の歴史を振り返ってなつかしくご歓談いただく姿が見られ、たいへん和やかな会となった。

これまで本校にちようだいしたご理解ご協力に心から感謝申し上げますと共に、これからもご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。



35周年記念

全国で反響!!

篠崎良勝専任講師のケア・ハラスメント調査

八戸大学人間健康学部で篠崎良勝専任講師が実施した「介護の質向上に関する調査～介護労働者が辞める理由・そして介護労働者が考える介護報酬額とは」の調査結果が全国で反響を呼んでいる。

篠崎講師は、国が7月に社会福祉事業者確保に関する新しい指針をまとめ、従事者の給与向上に取り組む方針を示した中、現場の意識を把握するため今回の調査を実施した。

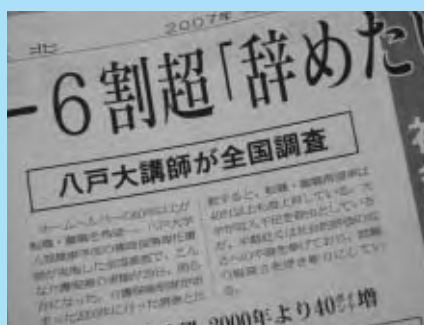
調査の結果、転職・離職希望者が2000年に調査したときよりも40ポイント増になっていた。その理由として、希望の収入が得られない。社会的評価が低い、ケア・ハラスメントなどの被害で精神的にきつい。身体への負担が大きい。などが挙げられた。

この調査結果がメディアで報じられた後、業界関連のブログやホームページなどのコミュニティサイト、業界ニュースで多くの反響があった。また、ニューヨークとロサンゼルスを拠点と

した、在米日本人や国際エグゼクティブを対象とした情報提供を行う大手日系出版社でも配信している。

関連する様々なコミュニティサイトでは、調査結果に「同様の経験あり」、「逆かと思った」、「ストレスがすごいみたい」、「びっくりした」、「ショッキングなニュースだ」、「この話題を見ると、悲しく苦しい感じがする」という声が多く、また、「高齢化社会に適応していかなければ」と意識が高まるコメントも出るなど、関心の高さが伺われる。また、医療・福祉ジャーナリストの一人は、「介護従事者の人権を守るという仕組みについて、行政や事業者・施設が本気になって取り組まなければ、介護という仕組みは現場レベルから崩壊していきかねない」と介護現場の現状を指摘している。

篠崎講師は、ホームヘルパーなどの介護従事者や利用者の実態に関して、様々な調査を手がけ、講演やパネルディスカッションの活動を展開している。その中で、「介護従事者にとって最も耐え難い重荷は、周囲の介護従事者に対するゆがんだ態度や環境である」と訴え続けている。介護報酬の問題、医療行為の問題など介護従事者を取り巻く問題は、介護従事者に対するゆがんだ態度や環境から生み出されたものに過ぎないと指摘。介護の現場やその従事者の社会的地位向上確立のため、今後も医療・福祉分野のシンクタンクとして、篠崎講師の今後の活躍が期待される。



総合研究所 地域貢献へ機能向上



総合研究所は、10月1日から市行政や民間企業をバックアップするシンクタンクの機能を高めるため組織を再編一新した。これまで市の活性化政策を手伝い、市民や学生を対象とした講座を展開してきたが、活動内容を一新、大学で培ってきたノウハウや研究成果をできるだけ公開し、市行政や

地元企業の商品開発に生かすことになるなど、街づくりや産学官連携を支援する市内の拠点に位置付け、シンクタンク機能を向上させる。

総合研究所の体制は、所長に蛇口浩敬学長、所長代行に鈴木宏一副学長、そのほか、ビジネス学部、人間健康学部の教授陣7人が月曜から金曜までの日替わりで研究所に駐在する体制を取る。各教員は、地域ブランドづくりや中心街の活性化などのテーマを設定して活動するほか、資格講座の開講など市民ニーズにも対応。産業活性化のため、各高等教育機関、市、八戸商工会議所などとのネットワーク強化を目指す。

ドイツ大使館公使「シュテファン・ガロン氏」 来学記念講演会



10月15日(月)10時30分より八戸大学220講義室において、ドイツ大使館公使「シュテファン・ガロン氏」来学記念講演会が行われた。講演は「日本とドイツ～持続可能な発展のための相互協力の可能性～」のテーマで開催され、学生及び教職員約200名が詰めかけ盛況となった。

シュテファン・ガロン氏は、来年、日本で開催される洞爺湖サミットに先立ち、6月に青森市で開催される「エネルギー担当相の会合」について、開催地である青森県のエネルギー政策に対する見識を深めるため来県

要請があり実現した。

講演会では、ガロン氏がドイツ語で話したことを、ドイツ大使館経済部の幸地晶子氏が通訳する形で行われ、その中で、日本とドイツ両国がサミットの主要課題として掲げる「気候変動問題」「エネルギー問題」について、先進国である両国が協力し、リーダーシップをとって、エネルギー問題を話し合っていかなければならない。と講演した。



した。

今回の講演は、そのガロン氏が青森県の若い世代、大学生と「日本とドイツの両国が担っていくべき責任、経済的チャンスと協力の可能性」についての意見交換を望んだところから、ドイツ在住の経緯がある蛇口浩敬学長がいる八戸大学に

第1回図書館公開講座の開催



八戸大学・八戸短期大学図書館では、地域開放・地域貢献の一環として、もっと市民の方々にも本館のことを知って貰おうと、大学・短大学園祭の日程にあわせて、本館主催の市民公開講座『絵本の読み聞かせ講座』が『所蔵絵本の展示』および『絵本の読み聞かせ実演会』と併せて開催され、2日間で延べ約220名の入館者がありました。

『所蔵絵本の展示』では、通常の配架絵本のほかに、「色の魔術師」と呼ばれるエリック・カールや五味太郎の絵本を中心に、楽しい絵本、美しい絵本、感動する絵本、あっと驚くアイデアいっぱい仕掛け絵本など約60点に解説書が付けられ展示されました。『絵本の読み聞かせ実演会』は

3回実施され、2歳～8歳の子どもたちの他、本学短大生や光星学院高校保育科の生徒さん、一般の見学者の方も参加し、



「絵本の読み手」の熱演には盛大な拍手が沸き起こっていました。

『絵本の読み聞かせ講座』は28日(日)の10:30～12:00に開催し、お子様連れのお母さん、保育士、看護師、読み聞かせボランティアの方など10名が参加しました。畑山俊輝館長からの開催の挨拶の後、司書による「絵本の読み聞かせの意義と読み手へのアドバイス」と題した公演と読み聞かせの実演が行なわれ、参加者は熱心に耳を傾けていました。



経営ビジネスセミナー開催

9月7日(金)21日(金)の2回にわたって、(財)八戸地域高度技術振興センターと八戸大学・八戸短期大学総合研究所の共催による「経営ビジネスセミナー」が総合研究所市内オフィスで開催された。

経営ビジネスセミナーは、昨年までの研究室めぐりが形を変えて行われたもので、今年は経営の革新・業務改善や新規事業の展開などに取り組もうとする企業経営者や従事者の方々を対象に、「企業力」と「人材育成」などをテーマに開催された。

今年度第1回となった9月7日(金)のセミナーでは、八戸大学副学長・ビジネス

学部長の鈴木宏一教授が「Glocal 時代と八戸発 New Business の可能性」のテーマで、海外から見た日本の国力やアジアの共生についての例を示しながら、八戸広域経済圏の経営戦力について講演した。第2回目のセミナーは9月21日に、ビジネス学部の丹羽浩正教授が「成長企業の人材育成・開発管理」のテーマで経営と人間の関係や組織の人事強化についてそれぞれ講演が行われた。セミナーでは質疑応答や参加された方々の自己紹介等、親睦が行われ、和やかなセミナーとなった。



ハイレイン・コミュニティ・カレッジ留学説明会 およびTOEFL模擬試験実施

10月26日(金)八戸大学姉妹校ハイレイン・コミュニティ・カレッジとカプラン・インターナショナル(語学研修センター)が主催して、留学説明会とTOEFLの無料模擬試験が、総合研究所で行われた。

この説明会は、一般市民、教育関係者や学生などを対象に実施されたもので、昨年に続き、第2回目の実施となった。



午後2時から行われた、ハイレイン留学説明会では、ハイレイン・コミュニティ・カレッジ国際交流部担当責任者の藤原麻里子氏が、留学準備、ハイレイン・コミュニティ・カレッジとカプラン語学研修の紹介、留学手続きや進路相談等について、ビデオ上映を交えながら説明を行った。3時から、TOEFLオンライン模擬テスト(リスニングとリーディングのみ)が行われた。結果はその場でわかり、英語力アップへの個別相談等も実施された。

藤原麻里子氏は「この姉妹校である八戸大学を拠点として、東北地区の大学へ広くハイレイン・コミュニティ・カレッジを知らせていきたい」と話す。また、これに関連して「歌手の研ナオコさんの



ご息が、ハイレインに入学していることから、11月30日(金)午後7時から、研ナオコさんが出演するフジテレビの番組でハイレイン・コミュニティ・カレッジが紹介されるので、是非、見て知ってもらいたい」と語った。

スクールバス2台納車



9月12日(水)11時より、八戸大学正面玄関前において、新しく納車されたスクールバスの祝福式が行われた。

式には関係職員が出席し、首藤正義司

祭のもと運行の安全を祈った。

納車されたスクールバスは2台。1台は、31号車として、野辺地西高校へ配備され、大畑方面から通学する高校生の送迎などに使用される。もう1台は、33号車として光星学院高校に配備され、岩手県の軽米方面から通学してくる生徒たちの送迎に使用されるほか、聖アンナ幼稚園の園児たちの送迎にも利用される。



平成19年度父母の会地区懇談会開催される



平成19年度の八戸大学父母の会地区懇談会は、10月27日(土)八戸大学会館、11月

4日(日)マリオス(盛岡駅西口)の2カ所で開催され、両会場あわせて約80名の父母が参加した。

両会場とも、学長挨拶の後ミニ講義(公開講義)、学部などの状況の説明や個人面談が行われた。

父母からの「大学の講義を体験してみたい」という声により実施しているミニ講義は、公開講義として一般にも公

開され、教職課程を担当する内海隆教授と日當光男准教授が「ニッポンの教育ー過去・現在・未来ー」をテーマに講義、昨年12月に改正・施行された教育基本法にも触れるなど、聴講者からも大変勉強になったとの感想が多く出た。

個人面談では、ゼミ担当の教員が春学期末までの成績や部活動の状況、ゼミでの様子を父母に説明、普段知ることができない大学での様子を知った父母は満足した様子だった。

父母の会事務局では、「年に1度教員と父母が直接に接することができる機会なので、もっと多くの方に参加していただけるよう、さらに内容を充実させたい」と話している。



人間健康学部就職活動始まる!



人間健康学部の一期生(現3年生)がいよいよこの秋から就職活動を開始する。すでにこの時期に備えて6月より就職ガイダンスを実施してきたが、気持ちを新たに就職活動を迎えてもらうために10月

18日(木)に出陣式を行った。

式では、まず、学部長代行畑山俊輝教授より今回の出陣式の趣旨説明が行われ、続いて鈴木宏一副学長より激励を込めた挨拶、就職支援部長

の丹羽浩正教授より就職活動の「心構え」など激励の言葉が続いた。その後、就職支援課長より今後のスケジュールなどについて詳細に説明があり

出陣式は終了。また、式終了後には、エン・ジャパン株式会社の丸田哲幹氏より「人間健康学部の就職活動について」の講演が行われ、参加した学生は、これから迎える就職活動にそれぞれの思いを巡



らしながら、真剣に聞き入った。

なお、就職支援課ではそれぞれの進路が達成できるよう、学生と一層コミュニケーションを図りながら指導・支援を行っていく。学生自らが意欲的に就職活動に取り組み、新たな1ページを刻んでくれることを期待している。





2007 海外研修を終えて……

8月26日(日)～9月9日(日)の15日間、アメリカ合衆国ワシントン州デモイン市にある八戸大学との姉妹校ハイライン・コミュニティ・カレッジにおいて「海外研修」が行われた。「海外研修」では、カレッジ内にある語学研修センター「キャプラン」での英語研修、ホームステイやフェデラルウェイ市庁舎訪問および観光施設などの見学研修、現地日系ビジネスマンによる「特別講義」などが行われた。参加した学生からは、次のような感想が述べられた。



今回の海外研修では、学んだことが多くありました。その中でも英語の勉強だけではなく、むしろ英語を話さなくて良かったと思っています。そのおかげでコミュニケーションの大切さ、気持ちを伝えられることの大切さに気づきました。「話す」ということは、言語が違って

できます。気持ちを伝えようとすれば相手は聞いてくれるし、相手の気持ちを聞こうとすればたいていは理解できます。言語の壁は以外に薄いものです。いかにその人と「話したい」かが大切なのだと思います。

自分は英会話が少ししか出来ません。観光が目的で今回の研修に参加したと言ってもいいでしょう。しかし、そんな気持ちで参加しても、たくさんのことやものに触れることが出来ました。そこからまた、シアトルに行きたいと思えるようになり、英語を勉強したいと思えるようになりました。出来る、出来ないと先に考えるより、とにかく、何でも手をつけてみると見えてなかったものが見えるようになります。良いところも、悪いところも見たり聞いたり、話さないと解りません。行動を起こさないとなおさら解らないと思います。机の上での「勉強」も大切ですが、「体験」して学ぶことの大切さも知ることができました。

人間健康学部2年 宮澤亮彦
(久慈工業高校出身)



海外研修を振り返ってみると、その毎日の1日1日がかかなり充実していて、非常に内容の濃い2週間でした。行く前の私はとりあえず観光目的、といっ



た気持ちでしたが、帰る頃にはその気持ちとは裏腹にあれば嫌いだっただ英語なのに、“もっと英語を勉強してまた来たい”そんな気持ちになっていました。英語を英語で学ぶ、そういった姿勢もすごく私にとって新鮮で面白かったし、アメリカスタイルがかかなり私にはあっているように感じました。この研修のおかげで、新たに夢や目標が見つけることができ、今はそれに向け頑張りたいという一身です。

目標、それはもっと英語を話せるようになり、もう一度シアトルに行くこと。そして2週間お世話になったホストファミリーとたくさんコミュニケーションをとりたい。このことが実現するよう、これからの生活を見直し生活していきたいと思います。

人間健康学部2年 松森沙知
(青森西高校出身)



人間健康学部は八戸市の秋の恒例イベント「八戸市健康まつり」に今年度もゼミ学生有志と学部教員3名が催事参加しました。

晴天に恵まれた9月30日(日)、八戸市公会堂大ホールと八戸市中央公民館文化ホールを主会場とした「第16回八戸市健康まつり」(八戸市中央公民館主催、八戸市と八戸市公会堂共催)が開催されました。「八戸大学人間健康学部」として参加団体に名を連ねての昨年の初参加に続き2度目の参加をしました。参加団体

は八戸市医師会、青森県薬剤師会八戸支部、青森県看護協会三八支部、八戸市総合検診センター、八戸市体育振興公社、八戸市社会福祉事業団等でした。

イベントや多彩な各種健康展(各種相談、各種検査、歯の健康、介護・年金、

めたのは、「遠藤ゼミ～運動不足チェック」「吉田ゼミ～毛髪中水銀測定」「渡辺ゼミ～体組成測定」のコーナーでした。終日お客さんが絶えないほど大好評でした。本学ならではの企画だったと思います。

夏休み中から準備をすすめて参加したゼミ学生有志のメンバーたちにとって、学外に出かけるフィールドワーク活動の一端として、今回、年代を超えてコミュニケーションする楽しさと難しさを体験する貴重な機会となりました。



人間健康学部

八戸市健康まつりに参加！

健康運動他)の中で、本学人間健康学部のメンバーは、「あなたの体力、大丈夫？」をテーマにしたブースで、簡易体力測定、健康チェック、食生活が及ぼす健康影響についてのパネル展示を行ないました。その中でも行列ができるほどの人気を集

第12回北海道・東北地区大学野球王座決定戦 3年ぶり2度目の優勝



春季リーグ戦を2年ぶりに制して臨んだ全日本大学野球選手権大会では初戦は勝利したが、2回戦敗退の結果に終わった。2試合とも東京ドームでの試合だったので、秋は必ず明治神宮大会に出場し

て大学野球の聖地である神宮球場でプレーすることを皆で誓った大会でもあった。

夏休み中の練習や遠征で春以上に力をつけて臨んだ秋季リーグ戦では、先発に櫻田裕太郎（2年横浜高校出）投手、前橋泰輔（3年浜松工業高校出）投手のローテーションで8連勝（最終成績9勝1敗）し、2季連続9度目のリーグ戦優勝を勝ち取ることができた。中でも前橋投手は自己最多の3勝を挙げチームの優勝に大きく貢献し、第12回北海道・東北地区大学野球王座決定戦出場権獲得の原動力となった。

北東北野球連盟代表として出場した王

座決定戦（10月12日から開催）では、初戦の道都大学（札幌学生野球連盟代表）戦を前橋投手の好投で3対1の接戦で勝利し決勝戦へ進出。決勝の東北福祉大学（仙台六大学野球連盟代表）戦では先取点を取るものの、終盤にエラーなどで同点に追いつかれてしまい延長へ突入。延長10回、二死二塁から岩本康平（3年上宮太子高校出）選手の決勝タイムリーで逆転に成功した。最後は櫻田投手が抑え、2対1で連日の接戦を制し3年ぶり2度目の明治神宮大会出場を決めた。



都道府県大会を含めると6000近くのチームが参加する本大会は、国内の最高峰の大会であり、プロとアマが対戦し、元旦の決勝戦を目指して熱戦と数々のドラマを目にすることが期待される大会である。

さて、本学サッカー部はここ数年、全国大会で2回戦・3回戦に進出しているため、今年も県予選では連覇を期待された。シードで出場した準々決勝では、海上自衛隊に9対1、準決勝は光星高校に2対1、決勝戦は青森山田高校に7対3

NHK杯第58回青森県サッカー選手権大会(天皇杯予選) 4年連続7回目の優勝

で勝利し、4年連続7回目の優勝を飾った。

全国大会の1回戦は長野県代表の大原学園との対戦となった。試合は本学のペースで進んだが一瞬の間隙をつかれ、相手に先取点を奪われ追う展開となった。試合はお互い守備の甘さから得点の取り合いとなったが、本学がロスタイムで決勝点を決め5対4で2回戦に駒を進めた。

2回戦は長崎県代表で社会人地域リーグに所属し、プロチームを目指しているV・ファーレン長崎との対戦となった。本学は守備的に試合を進め相手の隙を狙う戦法で戦ったが、前半終了間際に先制され、後半も追加点を許し、0対5で敗れ、2回戦で姿を消した。

天皇杯に出場するチームの大半は格上が多く、年々初戦を勝ち抜くことが難しい状況となっているが、選手はチャレンジ精神を忘れることなく、これまでの経験を生かし更に前進していくことだろう。結びに今大会では、法人関係者をはじめ多くの皆様にご声援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。



硬式野球部 小学生野球教室で指導

10月20日(土)、21日(日)の2日間にわたり八戸東運動公園球場において、小学生野球教室が行なわれ、八戸大学硬式野球部が小学生約90名に対して守備と打撃の指

導を行なった。

この小学生野球教室は、八戸市体育振興公社が主催で、小学生の技術向上と、子どもたち



に野球の楽しさを感じてもらうために開催したものである。講師と

して参加した八戸大学野球部員たちは、先にシートノックによる守備のデモンストレーションを行ない小学生にレベルの高い野球を見せた。その後は、各ポジションにわかれ、キャッチボールや、守備位置での構え方、捕球の仕方など、ボールを使いながら指導した。小学生たちは、歓声をあげながらも、真剣な表情で取り組んでいた。

映画「伊藤の話」八戸大学で公開ロケ



八戸市と久慈市を舞台にした秋原正俊監督の「伊藤の話」(カエルカフェ制作・配給)の公開ロケが9月16日(日)、八戸大学で行われ、学生や職員がエキストラとして参加した。

「伊藤の話」は、執筆した本がヒットした伊藤則資が八戸大学教授として赴任。琥珀の精霊と恋に落ち、やがて身を滅ぼ

すと云ったストーリーで、小泉八雲の「伊藤則資の話」が原作。秋原監督の大学の先輩である坂下允章八戸短大教授がロケを誘致し実現した。

八戸大学のロケには、主人公伊藤則資役の温水洋一さん、助手役の田丸麻紀さん、主任教授役の十日市秀悦さんが訪れ、講義室や研究室、事務室でのシーンが撮影された。名優の熱演に撮影会場は緊張した空気に包まれた。

講義室での撮影では本学の学生30人が、事務室の撮影では職員10人がエキストラとして参加、本場の映画作りに触れた。

また、映画撮影の準備のために設置された「映画プロジェクトチーム」のメンバーと業務班の職員が八戸大学でのロケをバックアップしたほか、撮影スタッフが八戸入りした9月14日から18日まで、



八戸・久慈両市での撮影に帯同した。

映画は来年4月から順次全国上映の予定で、八戸では4月12日から八戸フォーラムで公開される。

「八戸大学」OB&OG訪問 part7



盛岡商業高校教諭
小松 了さん

プロフィール

岩手県出身、一戸高校→八戸大学卒(5回生)、遠野情報ビジネス校など岩手県内の高校勤務、平成14年より盛岡商業高校教諭。

Q. はじめに学生時代の思い出を教えてください

A. 私たちの頃はクラブ活動などまだ活発ではなく、大学で友達と遊ぶのが中心でした。4年生になってから本格的に就職を目指し、就職浪人覚悟で内海先生の研究室に出入りし、先生から力をいただき、お世話になりました。事務局の手伝いをしたこともありました。

Q. 「盛商」といえばお正月のサッカー日本一ですね

A. 国立競技場へ応援に行きましたが、「感動」の一言で、これ以外の言葉はありません。主将がうちのクラスの子でしたからなおさらでした。準々決勝以外の

試合は見ました。

Q. 教師としてのやりがいを教えてください

A. 学校でやる仕事はどれも同じだと思いますが、生徒はそれぞれ個性があり違う。情性では仕事ができないし常に新鮮です。卒業したあとに挨拶に来て、頑張って活躍していると聞くとうれいです。

Q. 最後に在学生にメッセージをどうぞ

A. インターネットを通じて大学の活躍をみっていますが、OBとしてうれしいし、誇らしく思っています。学生時代の経験を生かして社会に出てからも活躍できるよう、充実した学生生活を送ってほしいです。

ほっ

と
たいむ

インターネットで検索しているとき、「頑張れ八戸大学」という文字が目飛び込んできた。興味津々でクリック。スポーツ好きで関東在住のサラリーマンの方が、自分の日常

などを書き込んでいる個人運営のブログだった。そこには今年の6月に行われた全日本大学野球選手権についての期待や感想などが書かれてあった。個人的に八戸大学を応援しているという。八戸大学を応援しているのは、10年以上前に弟が八戸大学に在籍していて、野球部に所属していたからで、住んでいる関東から八戸まで弟の試合を見に来たこともあるよ

うだ。八戸は遠かった〜。と当時の感想も綴ってあった。八戸大学が全国大会に出場する度、毎回、自分の中で一番に応援しているという。弟が八戸大学を卒業してからも10年以上八戸大学を応援してくれる人がいることに感銘。このような人たちが全国にまだいるかもしれない。

(フル)



10月3日(水)に「平成19年度ライフデザイン学科ボランティアディ」が開催され、ライフデザイン学科1・2年生と教員が参加した。今年度のボランティアディは、午前中に赤い羽根募金活動、午後にはテーブルマナー講習会を行った。

募金活動は市内中心街、ラピア、ピアドゥ等の9箇所に分かれた。初めは、通

ライフデザイン学科 ボランティアディ開催

行人へ声を掛けることが出来ないグループが見受けられたが、時間が経つに連れ、学生達は積極的に通行人へ声を掛け、募金への協力をお願いしていた。約1時間30分の短い時間の中で、集まった募金は31,833円。

学生達は、募金活動をしたことに誇りを持ち、今後のライフワークに役立てることが出来たと思われる。

募金活動を終えた後、八戸プラザホテルへ移動しテーブルマナー講習会を行った。八戸プラザホテルさんの協力を得て実現することが出来た講習会。「知的で贅沢な場を創るために～美しいテーブル

マナー～」を八戸プラザホテルの金子慎也氏から講話を頂きながらフレンチコース8品を頂いた。中には、テーブルマナーに関する問題も取り入れながら、楽しく、贅沢な講習会を行うことが出来た。



ショッピングセンター ラピアで 現場見学

10月2日(火)ライフデザイン学科2年生がショッピングセンターラピアで『商品学Ⅱ』の講義による現場見学を行った。『商品学Ⅱ』は、本学の非常勤講師であるショッピングセンターラピア専務取締役北村均氏が担当している科目であることから、今回の現場見学が実現した。講義の概要は、商品開発、販売戦略、広報戦略演習のカテゴリーから、グループ毎にテーマを決め、その分野を担当し提案

していくものである。そこで学生たちは、実際に現場へ足を運び、それぞれのテーマに沿って各テナントを見学し、店員の方々から各カテゴリーのノウハウを吸収していた。

北村氏は、この地域密着型ショッピングセンターを継続させ、更なる発展を目指していくためにも「館内の店員はもち

ろん、清掃業者やテナントのアルバイトであろうと、どのお客様からの声に対しても迅速で丁寧な答えられるようにしていきたい」と今後の課題であることを学生達に説明していた。これからも、この学外授業を再度実施し、これまでの講義で学生自身が商品学で学んできたことを生かし、今後に役立てて欲しいとしている。



教育実習体験記

幼児保育学科2年生 森田亜紀（三沢高校出身）

私は、松園幼稚園で教育実習を行いました。松園幼稚園は、音楽に力を入れていると聞いていたので、季節の歌を弾けるようにピアノの練習をして実習に臨みました。年少クラスに入った時、急遽「秋の歌を弾いて欲しい」と頼まれ、「シャボン玉」「とんぼのめがね」を演奏しました。練習の成果を出し切りミスなく弾くことができました。実習中はマーチング発表会が近かったため、

子どもたちの演奏を見たり、楽器を準備することが多くありました。一生懸命練習に取り組む子どもたちの姿を見ると、「子どもたちのために何かしてあげたい」と思うようになりました。先生方も「毎日子どもたちが頑張っているから、私たちもできる限りのことをしてあげたい」と言っていました。子どもたちの笑顔や成長を見るために、毎日様々な場面で子どもたちをサポートしているということを実感しました。

今回の実習では、子どもたちからたくさんの笑顔や元気を貰い、自分自身もとても充実した教育実習期間を過ごすことができました。サポートする仕事は大変だと思いますが、自ら笑顔や元気を与えられるような保育者になりたいと強く思いました。そのために毎日笑顔を忘れず、残りの学生生活を有意義に過ごしたいと思います。

三 団 体 親 睦 会 開 催 さ れ る



平成19年度光星学院専攻科三団体（P
T A 後援会・P T A・同窓会）の役員お

よび理事による親睦会が、10月
13日(土)午後6時30分より八戸プ
ラザホテルのアーバンホールに
おいて開催されました。専攻科
の教育事業を後援および発展に
寄与する目的として、三団体の
皆さんが交流するこの親睦会は、
平成14年から始まり今年で6回
目を数えました。今回は三団体
の方々と学校長はじめ教職員あ
わせて23名の参加でした。

最初に椿鉄男P T A 後援会会
長の「これからも専攻科のます
ますの発展を願って皆様のご協力をお願い
します」との挨拶に続き、山西幸子校

長のお礼の言葉がありました。

梶浦春光P T A 会長の乾杯で始まった
親睦会は、各テーブルとも話題が絶える
ことなく終始和やかに進行し、あっとい
う間に予定の時間になりました。最後に
杉本陽子P T A 副会長の人柄を表すよう
な締めめの挨拶により、今年度の三団体親
睦会はお開きとなりました。

今後もこの会がますます活性化し、専
攻科の支援各団体の活動を理解すると共
に、会員相互の親睦が図れるようにして
いきたいと思います。

学 生 会 便 り

ラリー大会

自動車科の単独行事、第30回安全ラ
リー大会が9月18日(火)に行われました。
この大会は、『交通規則を守る運転により、
安全運転に対するモラルの向上』を目的
に毎年開催しています。ルールは、目的
地や道順が分からないコースをスタート

直前に渡されるコマ地図を見ながら制限
速度で進み、あらかじめ決められたタイ
ムにいかに近いタイムでゴールできるか
によって競われます。

当日はあいにくの雨の中、14台のチー
ムに分かれ3分おきにスタートし、専攻
科～階上～島守（新井田川水辺の楽校）
のコースを事故もなく全チームが無事に
ゴールすることができました。（予定し
ていたバーベキューは中止）

来年度以降も自動車科の特別行事とし
て大会を続けて行きたいと思います。



ボウリング 大会

10月10日(水)午前10時、専攻科全学生が
市内小中野にあるワヤマボウルに集合し
ました。4～5名ずつ各レーンに分かれ、
平成19年度第1回ボウリング大会がス
タートしました。2ゲームのトータルス
コアで争われる大会ですが、高校時代ボ
ウリング部に所属していた者やはじめて
プレーする者など、様々な学生がいて好
プレーあり珍プレーありの見ていても楽
しい大会でした。

ゲーム終了後、各科の上位入賞者と飛
び賞の表彰を行い解散となりました。ち
なみに各科の優勝者は次の通りです。自
動車科2年高橋孝裕君（トータル299）、
介護福祉科2年三浦知絵さん（トータル
247）でした。



研修旅行を終えて

介護福祉科2年 高田綾香
私達は10月2日から5日の研修旅行で、東京都青梅市の盲老人ホーム聖明園曙荘と国際福祉機器展を見学しました。

聖明園曙荘では全盲や弱視等の視覚障害者が100名入居されていて、職員は17名配置されていました。ちなみに夜間は職員1人で対応しているそうです。施設内では様々な工夫がされており、歩行の時は声を出しながら歩き他人とぶつからないようにしたり、食事や入浴は決められた席を利用者に覚えさせて移動させたり、介護者が誘導したりしていました。また、居室のドアに赤、黄、緑など原色を用いて弱視の利用者が位置を把握できるようにしたり、全盲の利用者には手すりに大、中、小のステンレスビスを取り付けて自分の居室を理解できるようにしていました。意外なことに点字は思ったより使用されておらず、点字が分からない利用者でも安

心して生活ができるようになっていと感じました。

国際福祉機器展では、排泄に関するセミナーや福祉機器等を見学しました。セミナーでは車椅子からトイレまでの移動介助の際、トイレの前にテーブルを設置することで楽に前傾姿勢を取ることができ、スムーズに立ち上げられるため自立支援にもつながること等を学びました。展示されている福祉機器の中には利用者の心理面に配慮し、見た目のデザインを重視した失禁パンツや転倒した時に起こりやすい大腿骨や頸部の骨折等を防止するために臀部にプロテクターを入れているパンツ等がありました。他にも人工ストマを装着していても排泄物が入る袋が目立たないように工夫されている物もありました。しか

し、残念なことにこのような機器の中にも介護者目線の物があり利用者の視点で考えていない機器もありました。

今回の研修旅行を通して私達は、介護福祉士として広く周囲に目を向け様々な情報を収集し、就職した際には利用者に安楽であり介護者には負担の少ない介護を提供できるようにしたいと思いました。



自動車科1年 北村俊一
わたしは10月15日から26日までの2週間、青森トヨペット(株)



現場実習を終えて

十和田店で現場実習を行いました。実際に整備(修理)をしている現場を見て、より確実に、そして丁寧に素早く作業していると感じました。様々な理由や故障で修理に持ち込まれる車がありましたが、

特に印象に残っているのは、オートマチックトランスミッションのオイルとエンジンオイルを間違えて逆に入れた車でした。オイルを抜き取り、洗浄して整備してもエンジンの調子は完全に直りませんでした。絶対

に考えられない間違いを何も知らずにやってしまう人がいるということを、生で見て体験することができました。

現場で働くメカニックに必要なことは、整備士の資格はもちろんですが、作業を効率よくできること、お客様に対して分かりやすく説明できることだと感じました。どんなに知識を持っていても、どんなに優れた工具を持っていたとしても、効率よく作業ができ説明できなければ意味がないと思います。

今後、自分も効率よく作業ができて、お客様に対しても分かりやすく説明ができるようにしっかりと勉強に取り組みたいと思います。

光星学院高校

P T A が生徒と一緒に

挨拶運動



本校 P T A の方々と生徒会役員、そして教職員による一声（挨拶）運動が9月25日、10月1日、29日の三回に渡って行われました。



先生方の声とはひと味違う声に、登校してきた生徒達は戸惑いを見せながらも、お母さん方の明るい元気な挨拶にすぐさま大きな声で挨拶を返していました。父母と生徒、教師が一丸となって交わす朝の挨拶風景にはいつもとは違ったさわやかさを感じました。また、今回の一声運動は父母と教師が一体となった教育活動でもあるということを再確認しました。P T A の方々には、朝早くからお越しいただき感謝申し上げます。

本校でJUMPチームが自転車の防犯診断

我が校インターアクトクラブ・JUMP（少年非行防止）チームは8月30日に自転車の防犯診断を実施しました。八戸地区少年補導協力員等連絡会と八戸警察署生活安全課のご指導により本校の駐輪場で、下校する生徒たちの自転車の防犯診断を行い盗難防止を呼びかけました。防犯登録ステッカー、ツーロック、ライトなどを点検し生徒に知らせるとともに、不備な自転車には注意を呼びかけました。

そして、その後に開かれた非行防犯教室では今回の防犯診断の結果が報告され、今後の防犯対策について話し合われました。



八戸花火大会 会場設営に協力

私たちハウス研究部員は八戸花火大会の会場設営にボランティアとして協力しました。また同じクラスの建築コース・機電制御コースの仲間9名も応援に駆けつけてく

れました。昨年の経験を生かし効率よく作業を進めることができ無事終了しました。当日は風が強く開催できるか心配でしたが、時刻が迫るにつれ風が弱まり予定通り花火が打ち上げられました。夜空に大輪の花が描かれたとき、充実感が湧いてきて、いつもとは違った気分の花火大会でした。来年は後輩が設置した場所で観ようと思います。

ハウス研究部部長 磯野瑞穂
(八戸第二中出身)

クロースアップ

優勝旗奪還をねらうサッカー部と初の栄冠をねらう陸上競技部・駅伝チーム。この二つの部を紹介します。

サッカー部

韓国遠征を終えて

サッカー部は、姉妹校の韓国・東北高校（ソウル特別市）に10月7日～12日（5泊6日）の日程で遠征して来ました。東北高校は、1986年にサッカー部が訪韓し試合をしたことがきっかけで、姉妹校関係を締結し、今年で21年目となります。今回の遠征は、4年ぶり9回目の訪問で

す。山西幸子校長をはじめ部長、監督、部員の総勢32名で訪れました。滞在中は2日間のホームステイ、4度の交流試合、Kリーグ観戦、東北高校の遠足に参加、そしてサッカー部との交流会など、非常に思い出に残る遠征でした。これからもサッカーを通じて、両校の深い友好関係を築きあげていき



姉妹校・東北高校親善試合 2007.10.9

と思います。

そして、優勝旗を奪還すべく、サッカー技術の向上に努めていく所存です。

陸上競技部 駅伝チーム

全国大会挑戦への 舞台整う！

本校駅伝チームは、県大会において男子は5年連続2位、女子は3年連続2位とここ数年、確実に力をつけてきている。今までは強豪校の選手層の厚さもあり、背中すら見えない悔しさを味わい続けてきた。しかし、近年、優秀な選手の入部や、ハードな練習を続けてきた結果、優勝を狙えるところまで力をつけてきた。

今年の高校駅伝では“優勝する”とい

う精神に火がついた記念すべき熱いレースであった。大会前1、2年生の若いチームで選手層的に心配のあった女子は、後半4区橋本美江（八戸第一中出）選手で一気に逆転の2位に。男子は、1区2年生の木村翔太（大野第二中出）選手がインターハイ選手相手に終盤まで併走。2区蛭名聡勝（東北中出）選手へ小差の襷（たすき）リレー。2位ながらもタイム的にはチーム最高の全国レベルにまで到達している。全国大会入賞経験のあるチームに肉薄した本校駅伝チームは、優勝を狙えるチームにまで成長してきた。選手たちの襷への情熱は更に加速してき

ている。いよいよ全国大会への挑戦の舞台が整った。



県高校駅伝・一区のトップ争いでデッドヒート（木村翔太選手）

母校での 教育実習を 終えて



八戸大学 小山田 浩子

私の教育実習は、10月9日から始まりました。専門分野が商業と情報だった為、主にビジネス科でお世話になることになりました。期待と不安に包まれながら光星学院高校へ足を踏み入ると、以前とは一風変わった雰囲気が漂っていました。私が在籍していた時とは制服が一新され、校舎も新校舎へと着々とその姿を変えようとしていたからです。一部に母校としての名残はありましたが、それでも私にとっては母校に訪れたと言うよりも、知らない学校へ来たような感覚のほうが強く感じられました。授業が始まると、話を聞いている生徒もいればおしゃべりを

する生徒もいて、なかなか自分の思うように教えることが出来ず、指導することの難しさを痛感しました。様々な戸惑いもありましたが、それでも最後の方には、人に教えることのすばらしさと感動することを感じることができたので、とても有り難く思っています。先生方や生徒さんにはいろいろとご迷惑をお掛けしたと思います。勉強させていただきまして本当にありがとうございました。この経験を今後の自分の進路へ生かしたいと考えています。

大きな大会で実力を発揮！

レスリング

山内拓真選手はこの夏、2つの大きな大会で結果を残した。昨年までは、全国の舞台に上がることはできても、なかなか勝つことはできず、全国で勝つことの難しさを痛感した。小柄な山内選手はその小さな体を生かすためには、スピードとスタミナアップする必要があると考え、身体能力のレベルアップに取り組んだ。苦しい日々だったが揺るぎない目標が支えとなり、着実に力をつけていった。昨

年とは違う自分に自信を持って臨んだインターハイ。優勝まであと一步届かなかったが準優勝に輝いた。そして、確信をもって臨んだアジアカデット選手権で

山内拓真選手（横内中出身）

＊アジアカデット選手権大会（U-17）

フリースタイル50kg 級優勝

（平成19年8月10日～12日、台湾）

＊全国高校総合体育大会レスリング競技

フリースタイル50kg 級準優勝

（平成19年8月1日～5日、佐賀県）

は、完璧に近い試合内容で日本人4人目となる栄冠を勝ち取った。価値ある負けを経験し成長した山内選手の次の目標は、もちろん日本一である。



空手

インターハイの空手競技は佐賀市市村記念体育館で開催され、本校からは高谷郁子選手が女子個人組手に出場した。昨年は初戦で敗退したので今回はその雪辱を果たそうと臨んだ大会だった。初戦から順調に快勝を続け、4回戦の相手は強豪宮崎第一高校の大村選手との試合。慎重に試合運び2-1で辛勝し、目標で

あった準々決勝へついに進出。次の試合は敗れたものの目標であったベスト8を達成することができた。昨年の初戦敗退から努力した結果が、この大きな大会での結果につながった。高谷選手の今後のさらなる活躍を期待する。

高谷郁子選手（青森佃中出身）

＊全国高校総合体育大会空手競技

女子個人組手 ベスト8



連載

変わりゆく 校舎



新1号館(北側)



新1号館(正面)

③「明日に向かって」

いよいよ新校舎の外観が見えてきました。三階までコンクリートが打設され、校舎の基本ができあがりました。また、新体育館もその大きさや形が見えてきました。ついに明日に向かって校舎が立ち上がったのです。そして個々の建物だけでなく、キャンパス全体の構図も分かるようになってきました。さらに9月に入り、新自動車実習場の基礎工事も始まりました。4号館改修工事もあり、光星学院高等学校敷地内の光景はまさに建設ラッシュそのものです。（9月）

10月是新自動車実習場も立ち上がり、新体育館には屋根が張られ、キャンパスイメージは益々明確になってきました。

今後も内装工事などの細かい工事や外壁工事、外構工事など来年1月まで工事が続きます。



新体育館



新自動車実習場



新1号館(左)と新体育館(右)

野辺地西高校

和泉流狂言でござる！

—光星学院野辺地西高等学校創立35周年記念芸術鑑賞会—

光星学院野辺地西高等学校は10月12日(金)の学校創立35周年記念式典に先立ち、9月28日(金)、記念事業の一つとして創立35周年記念芸術鑑賞会「和泉流宗家一門による狂言公演」を行いました。

35周年記念事業協賛会(会長甲田保光)では、保護者及び野辺地町民の方々にもご案内いたしました。当日はあいにくの雨模様でしたが、保護者、野辺地町の方々の他に、口コミで三沢市、おいらせ町から計85名の方々が鑑賞においでくださいました。

はじめの30分は和泉流宗家和泉元彌さんより日本の笑いのルーツ、狂言の歴史、和泉流の歴史、狂言の特徴、笑いのツボ、当日の曲目について説明。独特の迫力ある声とフロアを巻き込む巧みな話術に観客は吸い寄せられるように耳を傾け、相づちを打ったり、宗家から出される質問に答えたり。

次の30分は狂言「鬼瓦」、次に「盆山」が和泉流宗家和泉元彌と姉である三宅藤九郎さんによって演じられました。客席からは誘われるかのように笑いが起こり、狂言独特の笑いの醍醐味を味わいました。

最後の30分は狂言体験。椅子にもたれていた腰を離し、背筋をピンと伸ばしてまずは稽古の始めの挨拶「よろしくおねがいします。」次は発声練習。宗家に倣って狂言独特の声を出します。練習が終わると「ありがとうございました。」と終わりの挨拶。礼に始まり、礼に終わる稽古事の基本である挨拶の練習。日本

文化を伝承する上で欠かすことのできない挨拶・礼儀は、現代でもマナーとして大切なことが語られます。

残り15分のところで節子理事長が挨拶。生徒に熱っぽく語ります。

「今の皆さんがあるのは皆さんのお父さんやお母さんのおかげ。子を思うからこそ厳しくするのは。親もそして先生方もいろいろ教えてください。親や先生を大事にしなければいけません。」

締めは宗家。「芸事の世界は厳しい。明日親や師匠が生きているとは限らない。3回練習したことは体で覚えてしまいなさいと言われてきました。今日教えていただいたことは今日覚えなければならぬ。今日やるべきことは明日へ延ばしてはいけないということです。苦労から学び取ってほしい。生徒の皆さん、頑張ってください。」と結びました。

気がつけば花束贈呈。あっという間の1時間30分でした。



生徒の感想

「眠いところもあったけどおもしろかった。」

「狂言の練習がおもしろかった。」

「野辺地みたいなこんな辺鄙なところへ来てくれて嬉しかった。」

「あんな有名な人が来たんだよね。」

「節子ママ、かわいい。」

「握手しちゃった！」

保護者、町民の方々の感想

「大変いい思いをさせていただきました。」

「楽しいだけでなく、狂言の勉強をさせていただきました。納得しました。」

「こんな小さな町に、あのような方をお呼びして、私たちにも鑑賞の機会を与えてくださってありがたいことです。今度は東儀秀樹さんと呼んでください。」



全校生徒奉仕活動実施

1学年は通学路のゴミ拾い、町営グラウンド周辺や学校から国道4号線までの清掃活動、えぼし寮周辺のゴミ拾い及び雪囲い作業等を行った。

また、これと併行して、2学年、3学年生徒による校舎の雪囲い、中庭の植木の保護作業等が行われた。県内でも三つの指に入る豪雪地域(観測地点は学校のすぐ側)に位置する野辺地町にある本校では、毎年、生徒による雪囲いボランティア奉仕活動が実施されている。中でも4棟ある実習棟の窓枠に、屋根から落ちてくる雪を止める板の設置は大変な作業で

ある。

しかし、3年生ともなると、毎年行っている作業だけに、互いに協力し、楽しく語らいながら、手際よく活動していた。



奉仕活動を通して公共心を養い、学校環境等に関して意識の高揚を高めようと全校生徒が今年度2回目の奉仕活動を行った(近年、「青森県クリーン大作戦」が県内一円で展開されており、この運動を本校においても実施しようというものである)。

今回の第二回目(10月22日実施)は、

あぎんど祭りへいっしょに参りませ!!



10月6・7日の
両日、野辺地町商
工会主催の「第6
回野辺地町ずっぱ
ど・わっかど・あ
ぎんど祭り」が開

野菜など種類を保つことが出来、豊富な
品数が売り上げの増加につながったよう
である。

また、在校生のほかに卒業生（昨年の
経験者）も手伝ってくれて大助かりと
なった。生徒は自信を得て、元気な売り
込みの声が会場内に響いていた。町民の
方にも「元気な野辺地西の生徒」と覚え
てもらったようで、生徒もやりがいが増
していると思われる。

さらには着ぐるみによる赤い羽根募金
やミニSLを走らせて子どもたちを楽し
ませることも恒例のものとなり、益々町
民の皆様にご喜ばれる企画として好評を得
た模様である。

催され、本校も3回目の「チャレンジ
ショップ」参加となった。例年よりも二
週間ほど早く、暖かい陽気に包まれ、た
くさんの観客が来場した。

生徒が中心となり店舗を運営する
「チャレンジショップ」は、高校生と職
員が協力して商品の仕入れから販売まで
体験するもので、今年もホタテ・野菜
各種を商品として生産者から購入し販売
した。また、今年の特徴は宮農大（七
戸町）から大量仕入れを行なったことで



福祉大会にて感謝状受賞

平成19年度 野辺地町社会福祉大会に
おいて、本校生徒会は、社会福祉活動に
協力、援助した功績に対し感謝状をいた
だいた(写真：生徒会副会長、ボランティ



ア部々長 鶴ヶ崎修子（東
北東中学校出身）。

赤い羽根共同募金活動で
は、ボランティア部が福祉
協議会の職員とともに街頭
募金をし、生徒会は校内募
金。更には、野辺地町商工
会主催の「あぎんど祭り」
に於いても協力し合い、着
ぐるみを着て募金活動した。

また、野西高祭でのチャ
リティーバザーの益金を、
「町の福祉に役立ててほし
い」と町に寄付したりもし
ている。

他には、福祉協議会主催のいろいろな
行事にもスタッフとして参加している。

生徒会とボランティア部は、協力し合



いながら、これからもいろいろな福祉的
活動をしていきたいと思っている。そし
て、多くの生徒に参加を呼びかけて、そ
の輪が広がっていくことを願っている。

子どもの小さな幸福ーモンテッソーリ教育ー



現代において、子どもを取り巻く環境は急変しているにも関わらず、子どもの姿そのもの、「自分のしたいことを選び思いっきり遊びたい」という本質は変わっていないように思います。モンテッソーリ女史の子どもを捉える精神は、この教育に100年以上もの歴史を作りました。

モンテッソーリ女史は、「子どもは子どもであるべき」と述べています。

- 子どもに活動を選ばせるのは、今、発達していることをやりたがっているからである。
- 何よりも自分でできたという満足感が大切。
- 子どもは自分の力で自分自身を創っている。

このことが成し遂げられるために、整えられた環境作りは必要不可欠になります。一見簡単ようで難しいものです。幼児期は、何でも吸収しようとしたり、敏感期があるという特性をもっています。教師は、やがて「自立」しようとしている子ども達に惜しみなく心を尽くして援助をしています。地味ですがとても根気の要る仕事です。

様々な経験は、一つ一つが単に理解し、出来るだけでなく、その子の精神面を豊かにするのだと実感させられます。達成

できるようになった子どもは誇らしげな様子を見せ、今度は、誰かに尽くそうとする姿も見られるのです。



「いい子」は少し位わんぱくでも自分のすることを素朴に見つめ、そのことを自然体でやり遂げようとし、最大限に生かそうとします。一度良い方向で身についた感覚は、生涯正常化した心の育ちとして根底に根づく子ども達をみて感じさせられます。モンテッソーリ教育は、普遍的で平和教育までつながる要素を秘めています。目の前の子供達に感動させられ、未来に希望が持てる教育に出会ったことに感謝しています。



子どものためのクラシックコンサート

昨年から開催されている「子どものためのクラシックコンサート」は、ピアノ、バイオリン、ギター、チェロの4回のコンサートが盛況に終了しました。純粋に“クラシックを知識ではなく感覚的に聴く”ということに焦点をあてています。コンサートの様子からです。指でピアノ

を弾く真似や、リズムを音も立てずにとったり、首を曲に合わせて動かすなど“感じている”感性が伝わってきます。少しもじもじすることがあっても大きな音などで邪魔をする子は不思議にいません。また、楽器の“音”にも大きな興味を示す子もいます。3回目のコンサートです。この日のためにお洒落をして来る子もいました。この子どもたちの心が、自然な形でコンサートに参加できることを嬉しく思っています。また、これらは普段の様々な豊富な経験により生かされているとも思っています。演奏する側も子どもの程よい緊張感を感じ、双方で作り上げる幼児期ならではの音楽の世界の素晴らしさを感じています。



学園祭 in 美保野

テーマは『après la pluie le beau temps』
～雨のち晴れ～

メイクアップコンテスト、ストリートパフォーマンス、
フリーマーケット、模擬店などが行われた。

10月27日(土)28日(日)と2日間に
わたり、美保野キャンパスで八戸大学『秋
桜祭』、八戸短期大学『光華祭』、光星学院
高校『光星祭』が開催された。



八戸大学『秋桜祭』



八戸短期大学『光華祭』



テーマは『順風満帆』

ウィンドアンサンブルコンサート、チアリーディング発表会、ピアノコンサート、
附属幼稚園作品展などが行われた。

光星学院高校『光星祭』



テーマは『のばそう個性！』

かなえよう君の夢！

総合体育館に於いて、カラオケ、ダンス、
ギターの弾き語りなど「なんでも
パフォーマンス大会」が行われた。



学院キャンパスだより第7号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

第7号表紙

ドイツ大使館公使「シュテファン・ガロン氏」来学記念講演

10月15日、ドイツ大使館公使であるシュテファン・ガロン氏が八戸大学に來学し、八戸大学3号館220講義室(250名収容)において、「日本とドイツ～持続可能な発展のための相互協力の可能性～」のテーマで講演。学生及び教職員約200名が講演を聴くために集まった。本紙5ページに掲載。

